

第2号議案

道路改築事業

あがつまひがし ひがしあがつま はこしま うえぐり  
 国道353号 吾妻東バイパス2期 東吾妻町箱島～植栗

着工年度  
 評価理由

平成26年度  
 国の規程

1. 事業の目的

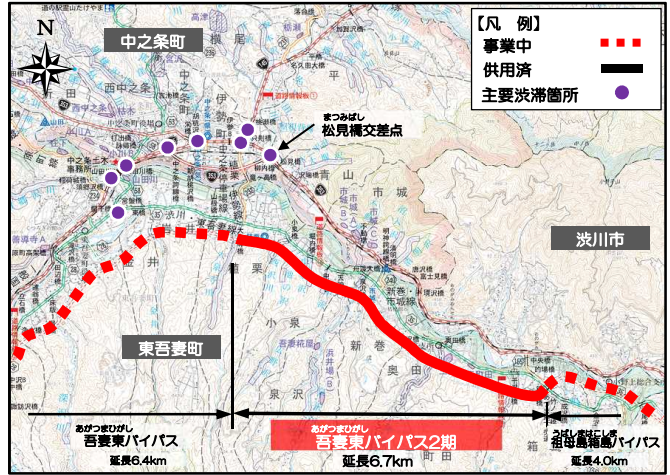
国道353号吾妻東バイパス2期は、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化や県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。また、ハッ場ダム周辺地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

【上信自動車道全体の効果】

- ① 県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮  
 吾妻地域から群馬県の総合周産期母子医療施設への1時間圏域人口が約9千人増加  
 【約24千人 ⇒ 約33千人】
- ② 関越自動車道へのアクセス向上  
 関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮  
 【約90分 ⇒ 約60分】
- ③ ハッ場ダム周辺地域の生活再建を支援

【上信自動車道 吾妻東バイパス2期の効果】

- ① (国)353号の渋滞緩和  
 松見橋交差点 渋滞長200m → 解消



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	あがつまぐん ひがしあがつままち はこしま ひがしあがつま うえぐり 吾妻郡東吾妻町箱島～東吾妻町植栗	
区分	事前評価時(H25)	今回再評価時
全体事業費	13,200百万円	13,200百万円
全体事業費増減の理由		
事業期間	H26～H34	H26～H37
事業内容	道路延長 6,700m 幅員 10.5m	道路延長 6,700m 幅員 10.5m

事業経緯

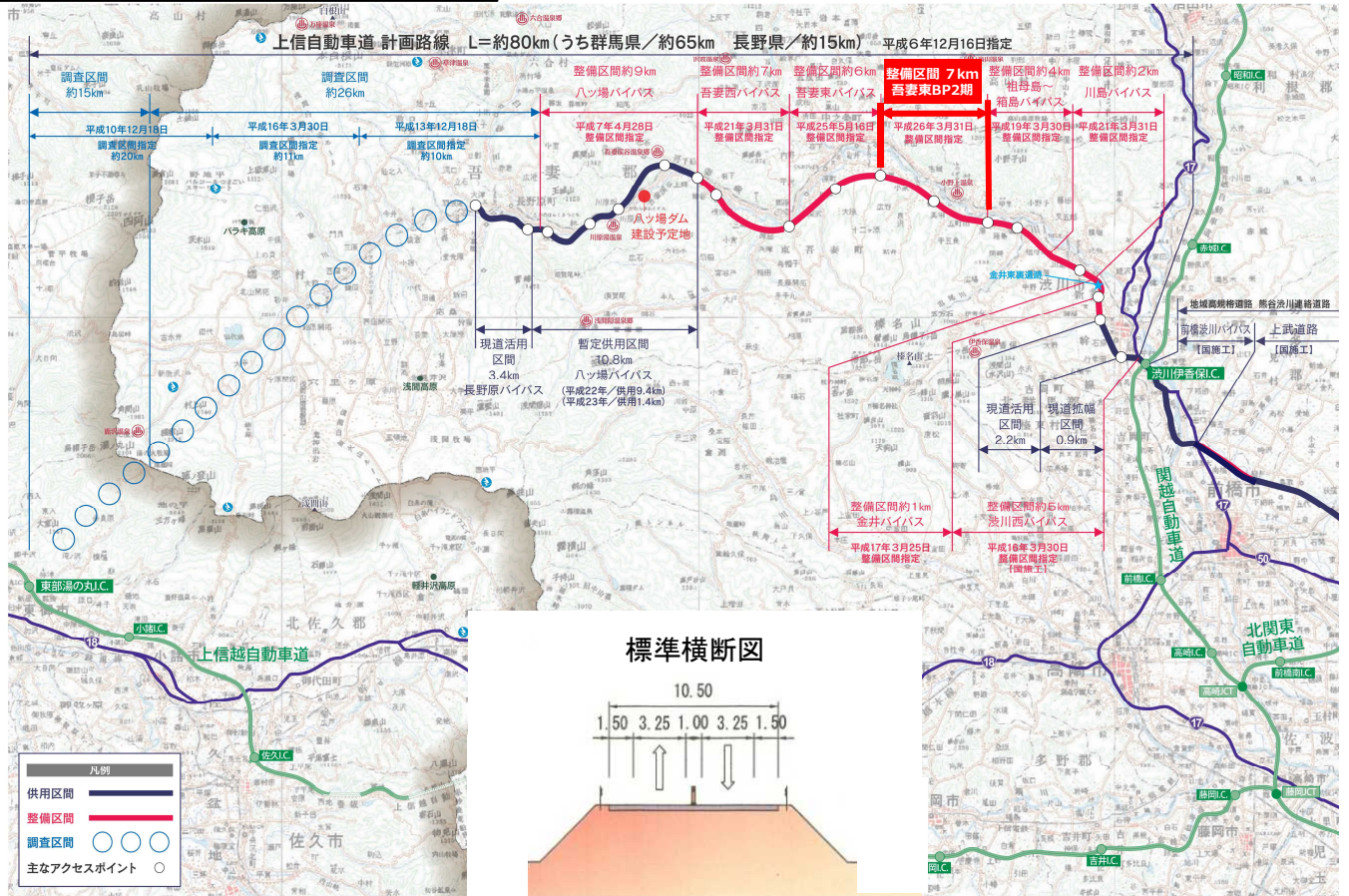
年度	主な経緯
H26	事業着手
H30	用地測量着手

進捗状況

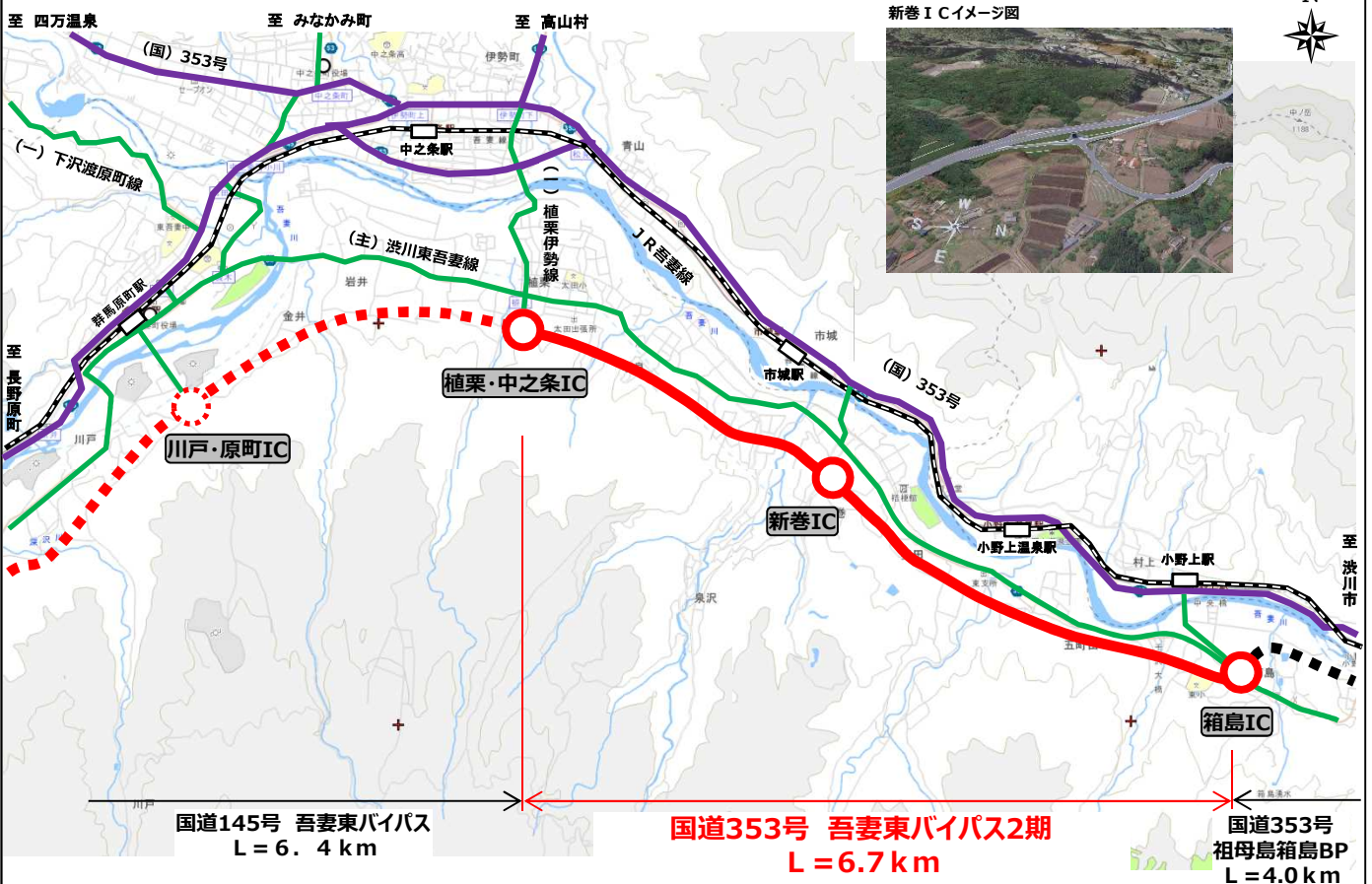
	全体計画	前回評価時の進捗状況(進捗率)	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	13,200百万円	/	879百万円 ( 6.7%)
用地買収	208,700㎡		0㎡ ( 0.0%)
計画延長	6,700m		0m ( 0.0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

### 地域高規格道路「上信自動車道」



### 吾妻東バイパス2期 概要

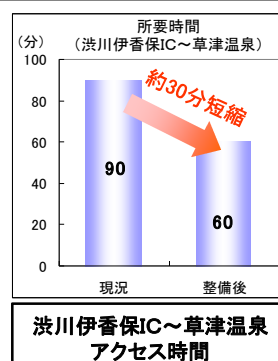
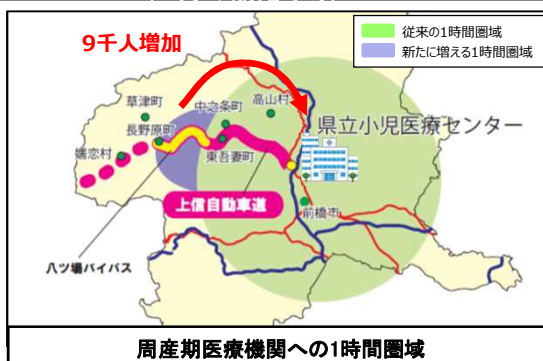


### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ①吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の拡大による地域経済の活性化や、県央地域の中核的医療施設への患者搬送時間短縮が望まれおり、事業の目的・必要性に変化はない。
- ②国道353号の現道においては、松見橋交差点(中之条町伊勢町地内)の渋滞発生や渋川市村上地内では一部区間で幅員狭小区間が存在しており移動の円滑化と安全性の向上を図る必要性は依然として高い。



(国)353号大型車すれ違い困難な状況



### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ①本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速道路網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路であり、一連区間として整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。
- ②中之条町内の慢性的な渋滞解消や現道における事故発生率の軽減を図るには、市街地を迂回し交通の分散が図られるバイパス整備が有効である。
- ③このため、目的を達成するための手段として適当である。

#### 費用便益分析

単位:千円

		事前評価時 (H25)		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成30年2月			
基準年		平成25年		平成30年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	9,623,000	94.1%	10,430,000	93.8%		
	維持管理費	604,000	5.9%	692,000	6.2%		
費用合計 (C)		10,227,000		11,122,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便	12,213,000	62.9%	16,945,000	90.6%	マニュアルの改定	
	交通事故減少便	2,748,000	23.0%	1,059,000	5.7%		
	走行経費減少便	4,470,000	14.1%	693,000	3.7%		
便益合計 (B)		19,431,000		18,697,000			
費用対効果分析 (B/C)		1.90		1.68			

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画

不測の事態により長期化】

### 【元々が長期計画の理由】

インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進しているが、事業延長L=6.7km、全体事業費132億円と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、埋蔵文化財調査及び工事完成までに長期間を要する計画となっている。

### 【不測の事態により長期化した理由】

バイパス建設により影響を受ける既存の生活道路や用水路等が多数あり、これら施設の機能を確保するため、継続的な調査(利用状況の聞き取りや水源の調査など)を実施しているが、調査及び調査結果を踏まえた代替え施設の設計や地域住民との合意形成に約3年の不測の期間を要したことから、開通が約3年遅れる見込みである。

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

国道353号吾妻東バイパス2期は、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上を図り、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化とともに、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハツ場ダム周辺地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道353号、(主)渋川東吾妻線のほか中之条町市街地周辺では、依然として渋滞が発生しているなど、吾妻地域と県央地域間の移動時間の短縮が図られておらず、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況に変化はない。

一方で、事業規模が大きく地元市町村や地域住民との合意形成に多くの期間を要したことから、開通時期が3年遅れ平成37年度となる見込みであるが、効率的な施工が可能となるような工事用道路の配置計画の検討を進めており、施工計画を踏まえた計画的な用地取得を行い、早期に工事着手できるよう努める。

また、平成29年度に上信自動車道建設事務所を増設し体制の強化を図ったところであり、引き続き地元関係者や地域住民と円滑かつ丁寧な協議を進め、遅れが最小限となるよう取り組む。

以上から本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考える。